

Title	本庄栄治郎著 幕末の新政策
Sub Title	
Author	加田, 哲二
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1936
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.30, No.4 (1936. 4) ,p.585(163)- 586(164)
JaLC DOI	10.14991/001.19360401-0163
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19360401-0163

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

幕末の政治情勢は、徳川幕府の没落と、新政府の成立と、西洋列強の侵入と、これら三つの大動向を背景として展開した。本書は、この三つの大動向を背景として、幕末の政治情勢を詳しく分析し、幕末の新政策を明らかにしようとする。本書は、幕末の政治情勢を詳しく分析し、幕末の新政策を明らかにしようとする。本書は、幕末の政治情勢を詳しく分析し、幕末の新政策を明らかにしようとする。

本庄榮治郎著

幕末の新政策

加田 哲 二

二百數十年の太平生活を續けて來た徳川時代も、その末期に至つては、甚だしい動搖と不安を持つ社會となつた。殊に天保改革の失敗以後、嘉永の外船來航を迎へるに至つて、政治的・經濟的不安は、封建制維持の困難なことを當時においてすら、自覺せしめたのであつた。

かかる政治上並に經濟上の不安動搖に對して、幕府諸侯は、何をなしたか。または何を爲さんとしたか。この點について、從來の歴史家は殆んど記することがない。幕末維新を論ずるものゝ多數は、政治的推移の記述に専らであつて、社會的不安・經濟的動搖・財政政策等を研究の對象とするものが少ないのである。殊に、幕府の經濟政策についての研究の行はれたものは殆んどないといつてよい。しかるにいま本庄榮治郎氏の「幕末の新政策」は、今日にいたるまで多く顧みられることなくして、打ち過ぎてゐたこの方面の研究である。滅亡に近づいた幕府は、その窮迫的狀態を脱出せんとして、如何なる政策を採つたか。これが本書の研究題目である。

本書は、これを三部に分つてゐる。その第一部は序論であつて、江戸時代概観と題されてゐるが、この部分は、

幕末の新政策

研究への序論で、著者の従来の研究の一般的叙述である。それを六十餘頁に記述されたのである。第二部は、幕末の新政策概論であつて、幕府の新政策に関する概観的記述であつて、多くの史書には、明治政府によつて始めて實行されたかの如く記されてゐる會社(商社)の設立、洋式工業の輸入に関する事項などの外、軍事・財政・貿易に関する新政策及びその計畫が記されてゐる。これらの新政策は幕府の窮迫状態を救ふに足らず、失敗の如くであつたが、その多數は、明治政府の手によつて、發展せしめられ、新政府の基礎となつたものである。

第三部は、第二部における記述の中、特殊の問題についての論文集である。それは次の如きものである。(一)参覲交代制度の變革附 郡縣制度採用の議、(二)レオン・ロシと幕末の庶政改革、(三)國益主法掛について、(四)幕府の紙幣發行、(五)幕府の物産會所設立計畫の五論文である。これは新政策概観篇に對する詳細な説明であつて、本書の主要部分である。この中われ／＼の特に興味を惹くのは、第二、第三及び第五であつて、没落せんとする幕府が、如何にそれを避けるために努力したかを示すものであり、從來この方面における研究が、處女地として放置されてゐたので、本庄氏の研究は、以後の研究への出發點としても、意義あることである。既に述べたやうに、從來の幕末維新史は、あまりに多く政治史的であり、幕府側の研究を閉却してゐる。而して、明治政府の政策は、舊幕府の政策を踏襲したものが多いためであるから、その研究は、是非必要である。近來、幕末維新史の幕府側からの研究が行はれるに至つたのは、歴史の正確を期する上において、甚だ喜ばしい傾向であるといふべきである。本庄氏の本書の如きも、その傾向を更らに新しい部門に向はしめるものとして、われ／＼を教ふるころ大なるものがある。殊に、徳川時代全般の經濟史に関する専門家の研究であるだけ、時代全體との關聯を忘れてゐないことは、本書の學問的價値を高めるものであらう。(有斐閣 定價三圓二十錢)

前號 (第三十卷) 目次

- 經營社會學、經營社會政策、
勞働者心理學 藤林 敬三
- 現代國家財政の類型 高木 壽一
- 貨幣的景氣理論上に於ける
金利の地位に就て 山本 登
- 六郷川渡船について
(社會經濟資料紹介) 野村兼太郎
- 新刊紹介 寺尾 琢磨
- 古版經濟書解題 高橋誠一郎
「サ・エドワード・ウエスト著一千八百十五年版
「土地に對する資本の適用に關する論文」

●一冊定價金五拾錢 郵税金壹錢五厘
●半年分金貳圓九拾錢 郵 稅 共
●一ケ年分金五圓四拾錢

●編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛
●營業に關する用件は發賣元宛
●原稿締切期日は發行の前月十日限

昭和十一年三月二十日印刷納本 每月一回一日發行
昭和十一年四月一日發行

三田學會雜誌 第三十三卷
編輯者 江田 範 保
發行所 東京市芝區三田二丁目二番地慶應義塾内
印刷者 金子 鐵 五郎
印刷所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
金子 活版所

發賣元 東京市芝區三田二丁目二番地
丸善株式會社三田出張所
電話三田(45) 一九二六番
振替口座東京 一一九二七番
一八五二番

發行所 東京芝三田 慶應義塾内 理財學會
振替 慶應義塾 芝區三田二丁目二番地
口座 慶應義塾 東京一八二〇四番